

子供たちを放射能被曝から守りたい！そんな同じ想いの親が集まって出来た会です。
定期的にミーティングをしていますので、1人で困って悩んでいる方！ぜひご参加下さい♪

NO! NO! 放射能 @ よこすか&みうら 子供たちを守りたい

ホームページ <http://noradioactivity.seesaa.net/>

放射能についての役立つサイトのリンクや活動内容が記載されています！是非ご覧下さい。

私たちにも3.11後の状況下でどういう風に生活して、子供を育てられるか、正解があるわけではありません。試行錯誤中です。様々な方々と対話して「今出来る事」「解決のきっかけ」を探して行きたいと考えています。

3月11日の東日本大震災を機に起きた福島第一原発の事故によって、大気・海・土壤に高濃度の放射性物質が大量に放出され、私たちの生活に大きな影響を及ぼしています。これから何十年とこの汚染は消えではくれません。放射能の影響は小さな子どもほど受けやすく、妊娠の方や小さなお子さんを持つ方は、特に日々注意しながら、子どもたちを被曝から守りましょう！正確な情報にもとづいて、自分なりのガイドラインを作りましょう！

放射線とは？

色も匂いもなく、目に見えない光のようなもの。原爆や水爆が破裂するプロセスから出るものや宇宙からやってくるもの、鉱石から放出される自然放射線など様々な種類のものがあります。人体を構成している細胞のDNAを傷つける為たくさん浴びると特に成長中の子供たち・胎児への影響が大きく、大人の3~5倍と言われています。

シーベルト Sv (実効線量)
(空間線量や被曝の数値でよく使われる表記です)

1Sv (シーベルト) = 1000mSv
1mSv (ミリシーベルト) = 1000uSv (マイクロシーベルト)

ベクレル Bq (放射能の量)
(食品や飲み物の時よく使われる表記です)

国の定めた基準は現在年間被曝限度量は1ミリシーベルト
注意! 外部被曝(大気) + 内部被曝(飲食、呼吸) = 年間被曝限度量です

日本と世界の基準値 こんなに違うの？

日本政府は福島第一原発事故のあと汚染をどこまで許容するかを示す基準値をH23年3月17日に引き上げました。現在の暫定基準値は国際的に見て、とても基準があまく、多くの専門家に指摘されています。 Chernobyl の事故を近くで経験したドイツ・ウクライナなどは、放射性物質の危険性を深刻に受け止め、厳しい基準値を設けています。日本も早く基準値の見直しをするべきだと思いませんか？

日本と世界の摂取制限の基準値



はじめに

横須賀市は原発事故前から原子力空母が停泊し、久里浜の核燃料工場もある関係で、モニタリングポストが18箇所あります。測定器など他の自治体に比べ充実しています。今、多くの保護者が心配している学校給食も、全国に先駆けた先進的な取り組みとして1週間分の給食サンプルまるごと検査を実施しています。これは吉田市長、多くの行政職員の方々、アドバイスして下さった専門家の方々、市議会議員の方々のご尽力の賜物です。しかし、まだ原発事故の問題は山積みです。焼却灰の処理や瓦礫の受け入れ問題、何十年と続く土壤汚染や海洋汚染など環境面の問題があります。今後も気になる事、不安な事があったら一人一人が声を上げる事が重要です。正しい情報を正しく理解し、みんなで一緒に子供たちを放射能汚染から守って行きましょう！



ただちに健康に影響はない？内部被曝を減らそう！

体外にある放射性物質から放射線を受けることを外部被曝といいます。一方、放射性物質の小さな粒を、呼吸とともに肺から吸い込んだり、母乳や牛乳・水や食べ物と共に消化管から取り込むことで、放射線をあびることを、内部被曝といいます。内部被曝では、外からごく短い時間放射線を浴びるCTスキャンやレントゲンなどの外部被曝とは異なり、局的にとても強い放射線を至近距離で、長い間くりかえし浴び続けるため、低線量でも危険性が高いということが欧州放射線リスク委員会（ECRR）から指摘されています。体内に入った放射性物質は、人体のさまざまな臓器に集まり、放射線を発し続けます。その化学的性質の違いで、臓器への吸収のされ方や体内にとどまる期間（生物学的半減期）が異なります。ヨウ素131は甲状腺にとどまり、甲状腺がんの要因となります。セシウムは筋肉に蓄積しやすいと言われてますが、筋肉以外にも骨・肝臓・腎臓・肺・など全身へ分散し臓器ごとの特別大きな違いは無いようです。ストロンチウム90やブルートニウム239は体内にとどまる期間が長く一度体内に取り込んでしまうと、その影響を何年にもわたって受け続けることになります。その為、数年後、数十年後にガンや白血病など発症する確率が高くなると言われています。暫定基準がゆるく、検査も行き届いていない状況では、子供たちの健康の為に産地を目安に食材を選ぶ事はやむを得ないでしょう。一刻も早い基準値の引き下げ、検査の徹底、情報開示、生産者への補償が重要な事だと思います。

実効線量係数を使いこなそう！

内部被曝の程度を知る目安として、実効線量係数というものが有ります。これは放射性物質の種類・年齢により細かく設定されたものです。一口で言うと1ベクレルを取り込むと何ミリシーベルト内部被曝した事になるかを知る為の係数です。例えばヨウ素131の乳児に対する係数は1.4/10000mSv/Bq(1ベクレルにつき1万分の1.4ミリシーベルト)です。なんだ、そんなに少ないの？と思いませんか？日本政府の乳児に対する飲料水の基準値は100Bq/Lです。この水を毎日1L飲み続けたら、たった70日で一般人の年間被曝限度1ミリシーベルトに達してしまうのです。実効線量係数の詳細は厚労省・食品安全委員会の資料などをネットで検索すれば知る事が出来ますが、それは少し煩雑なので、大まかな目安として0.000015と数字を覚えて下さい。これは成人がセシウムやヨウ素を取り込んだ時のおおよその係数です。1ベクレル摂取すれば0.000015ミリシーベルト被曝すると言う意味です。

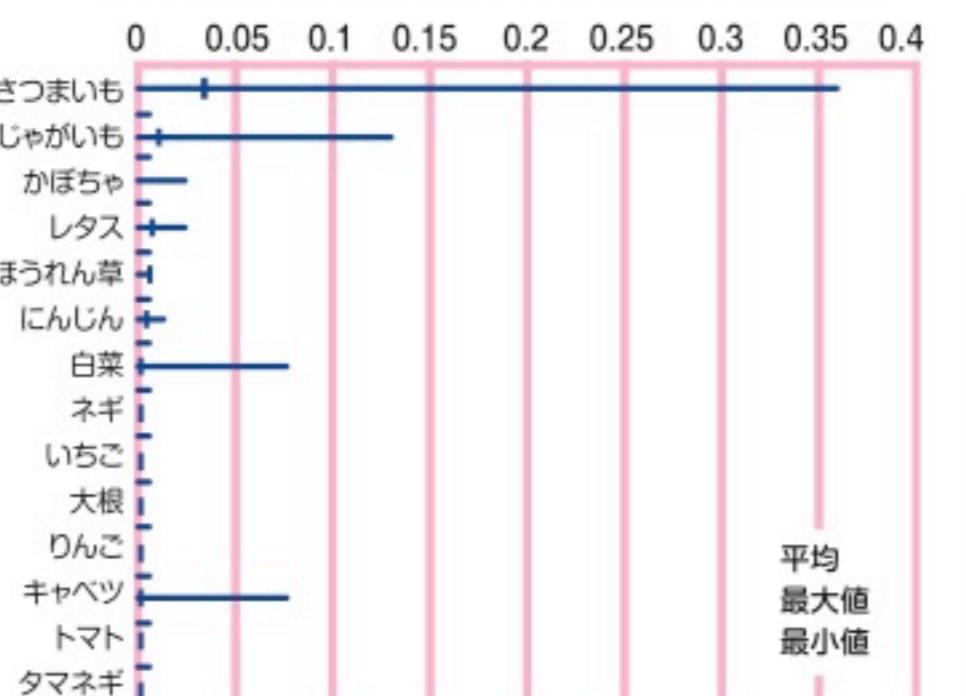
ベクレル数が判ったら、この数字を掛けて見て下さい。

環境から食物へ

公式に発表される放射線量が減少傾向に入ったとしても、決して安心・安全ではありません。それは川や海の底、水や土壤に蓄積、汚染はますます植物・農作物・海産物に広がり、次に家畜などに移ります。食物連鎖を通して、放射能が次々と生き物の間を運ばれ、最終的に人間に行きつくのです。土壤から作物、飼料から家畜へ放射性物質が移る場合、作物や動物種ごとに移行係数と言うものによって放射性物質の濃度を推定する事が出来ます。例えば肉牛が5000Bq/Kgの餌を毎日25Kgずつ60日間食べ続けた場合、牛肉中のセシウム濃度は12000Bq/Kgと推定できます。この場合の移行係数は0.096(約10%)です。移行係数が小さくても長い間には動物体内(筋肉)に蓄積していく事が判ります。植物への移行係数もありますが、作物の種類によってまちまちなので表に示します。栽培形態により変動しますので一概には言えませんが、1部のしいたけなどのキノコ類、栗、ぎんなんなどの秋の味覚やたけのこ、さつまいもなどは、暫定基準以下ですが、高い数値が検出された例も有りますので、正しい情報を得て注意しましょう！

セシウム-137 作物移行係数

5月に農水省が発表した移行係数を参考にしました



ND(不検出)は0(ゼロ)ではありません。測定する機械によって検出限界値というものが異なるので注意しましょう。

放射性物質が溜まりやすい場所！

放射性物質は、水が集まる所、溜まりやすい所が放射線量が高くなりやすい傾向にあります。家庭内では靴を洗う、特に玄関の掃除などをこまめするなどが大事ですね！手洗い、うがいも忘れないようにしましょう!!

が溜まりやすい場所です

屋上の側溝

木の根元

滑り台の下

建物の側溝

植え込みや花壇

- 雨どいの中
- 雨どいの下
- 雨どいの水を地面に流す所
- 側溝(屋上・建物・道路脇など)
- 木の根元
- 街路樹・植え込み花壇など地面
- 落ち葉などが堆積するような所
- 滑り台の下など..

2011年12月現在 横須賀市の除染基準値は地表1cmで0.59uSv/地表1mで0.23uSv以上です